

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果について【概要】

令和8年8月3日

福岡県教育庁教育振興部義務教育課

■ 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

■ 2 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年を原則として全児童生徒を対象

ア 小学校調査

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年

イ 中学校調査

中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

■ 3 調査実施学校・児童生徒数

小学校	学校数(校)	児童数(人)	
		国語	算数
福岡県(公立)	695	41,644	41,663
全国(公立)	18,077	922,411	922,778

中学校	学校数(校)	生徒数(人)		
		国語	数学	英語
福岡県(公立)	339	39,498	39,509	38,860
全国(公立)	9,098	841,873	842,491	839,203

※ 学校数及び児童生徒数は、国・私立を除く。

※ 小学校調査の学校数は、義務教育学校（前期課程）、特別支援学校（小学部）及び分校を含む。

※ 中学校調査の学校数は、義務教育学校（後期課程）、中等教育学校（前期課程）、特別支援学校（中学部）及び分校を含む。

※ 福岡県（公立）には、指定都市を含む。

■ 4 調査事項

（１）児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査：小学校調査は、国語及び算数、中学校調査は、国語、数学及び英語。国語及び算数・数学は、冊子を用いた筆記方式で実施。英語は、生徒が活用する ICT 端末等を用いた、文部科学省 CBT システム（「MEXCBT」という。）によるオンライン方式で実施。

イ 質問調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査は、児童生徒が活用する ICT 端末等を用いたオンライン方式で実施。

(2) 学校質問調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査を、オンライン方式で実施。

■ 5 調査実施日等

(1) 児童生徒に対する調査

	小学校調査	中学校調査
国語及び算数・数学	令和8年4月23日(木)	
英語(聞く・読む・書くこと)		令和8年4月20日(月)～23日(木)
英語(話すこと)		当日実施(全国から500校抽出)：令和8年4月24日(金)・27日(月) 期間内実施：令和8年4月28日(火)～5月29日(金)までの期間で、各学校の希望を踏まえて文部科学省が指定する日
質問調査	令和8年4月24日(金)～5月8日(金)までの間で、各学校の希望を踏まえて文部科学省が指定する日	令和8年4月20日(月)～23日(木)までの間で、各学校の希望を踏まえて文部科学省が指定する日 ・英語(聞く・読む・書くこと)と質問調査は同一日

(2) 学校質問調査

令和8年4月1日(水)～17日(金)までの間

■ 6 本県が育成を目指す「資質・能力」

これまで、本県においては、全国学力・学習状況調査結果として、文部科学省が示す資質・能力の三つの柱のうち、主に教科に関する調査をもとに「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の状況を分析、公表してきた。

文部科学省は、資質・能力のもう一つの柱である「学びに向かう力、人間性等」は、「児童生徒が『どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか』に関わるものであり、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。」としている。そこで、本県においては、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」とともに、非認知的要素を多く含む「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱をバランスよく育成することを目指す。

福岡県が育成を目指す資質・能力

○知識及び技能

○思考力、判断力、表現力等

○学びに向かう力、人間性等

学びを調整する力、粘り強く挑む力
自己有用感・自己効力感、
協働する力 等

非認知的能力

■ 7 調査の結果

(1) 教科に関する調査の結果

① 平均正答数、標準化得点、平均正答率、平均 IRT スコア

		小学校(公立)			中学校(公立)			
		平均正答数／出題数	標準化得点	平均正答率	平均正答数／出題数	標準化得点	平均正答率	平均IRTスコア
国語	福岡県	8.0	101.3	61	9.5	99.0	63	
	全国	7.9 / 13	(100.0)	60.9	9.6 / 15	(100.0)	63.9	
算数 数学	福岡県	9.0	100.0	56	8.9	97.8	56	
	全国	9.0 / 16	(100.0)	56.4	9.1 / 16	(100.0)	57.0	
英語 (3技能)	福岡県							483
	全国							499

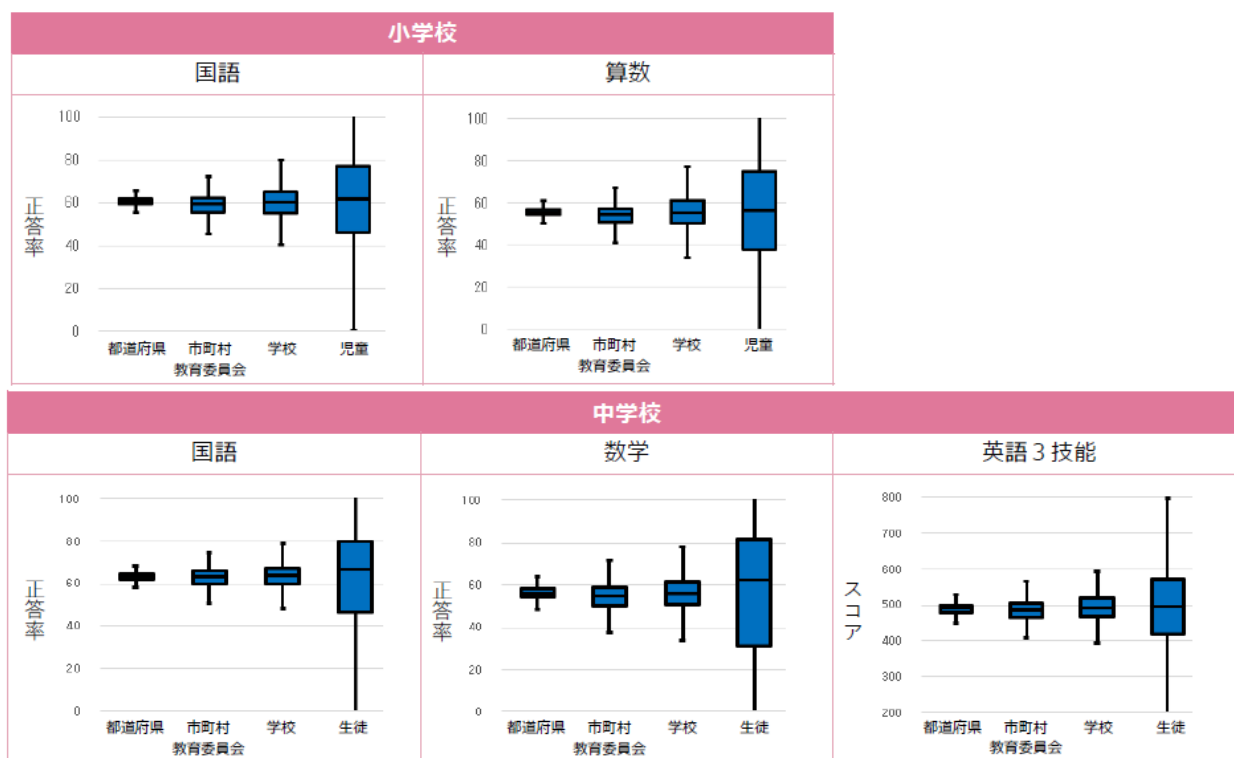
- ・ 標準化得点とは、全国平均正答数を100としたときの県平均得点のこと。
- ・ 県の平均正答率は、小数点以下を四捨五入した整数で国から提供されたもの。
- ・ 中学校英語は、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの4技能について調査を実施。公開問題（全日程に共通する問題と実施日により異なる問題）と非公開問題を組み合わせて構成されているため、平均正答数・標準化得点・平均正答率は算出せず、500を基準とするIRTスコアで表示。話すこと調査を含む4技能の結果は9月以降国から提供される。
- ・ IRT (Item Response Theory : 項目反応理論) とは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

- 小学校国語は、全国平均を上回り、小学校算数は、全国平均と同程度だった。
- 中学校国語、中学校数学及び中学校英語（3技能）は、全国平均を下回った。

※聞くこと、読むこと、書くこと

<様々な集計単位でみる正答率・スコアのばらつき：文部科学省資料>

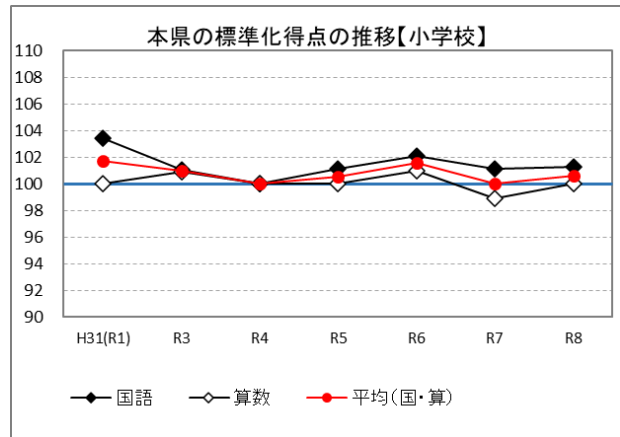
縦軸：正答率（中学校英語（3技能）はIRTスコア）



都道府県別の平均正答率・スコアについては、ばらつきの状況は狭い範囲に収まっている。
(文部科学省「令和8年度全国学力・学習状況調査の結果公表①のポイント」より)

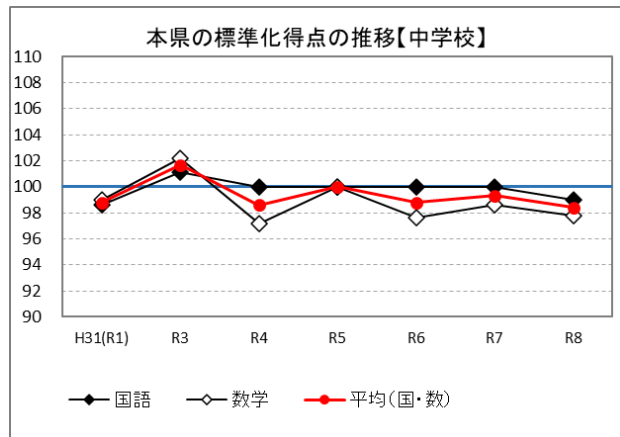
② 本県の標準化得点の推移 【小学校】

年度	国語	算数	平均(国・算)
H31(R1)	103.4	100.0	101.7
R2			
R3	101.1	100.9	101.0
R4	100.0	100.0	100.0
R5	101.1	100.0	100.6
R6	102.1	101.0	101.6
R7	101.1	98.9	100.0
R8	101.3	100.0	100.7



【中学校】

年度	国語	数学	平均(国・数)
H31(R1)	98.6	99.0	98.8
R2			
R3	101.1	102.2	101.7
R4	100.0	97.2	98.6
R5	100.0	100.0	100.0
R6	100.0	97.6	98.8
R7	100.0	98.6	99.3
R8	99.0	97.8	98.4



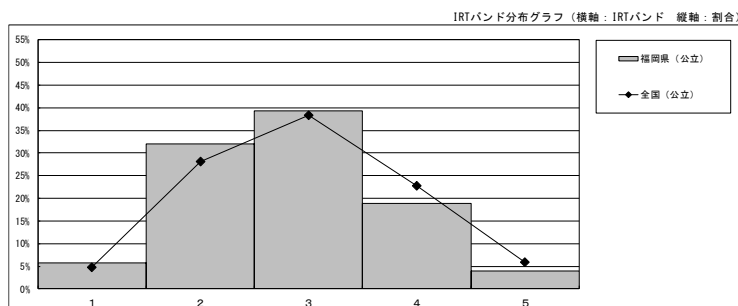
- ・ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等により、調査の実施は見送り。
- ・ 中学校英語は IRT スコアで示されることとなったため表示していない。

各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意が必要。

(文部科学省「令和8年度全国学力・学習状況調査の結果公表①のポイント」より)

③ 中学校英語（3技能）の状況

<IRT バンド分布グラフ>



<IRT バンド集計値>

IRT バンド	生徒数	割合(%)	
	福岡県 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
5	1,572	4.0	5.9
4	7,362	18.9	22.7
3	15,291	39.3	38.4
2	12,427	32.0	28.2
1	2,208	5.7	4.7

※IRT バンドとは、IRT スコアを1～5の5段階に区切ったもので、平均バンドは3、最も高いバンドが5となる。

- 今後、教科に関する調査については、解答の状況（地域差、解答類型、無解答率）等の分析を進めるとともに、質問調査については、教科に関する結果との関連や、学習指導要領の趣旨を踏まえた取組の状況等について分析を進めるなど、教育施策の成果と課題の検証改善や学校における学習指導の改善等に取り組む。

④ 地区別の標準化得点の状況

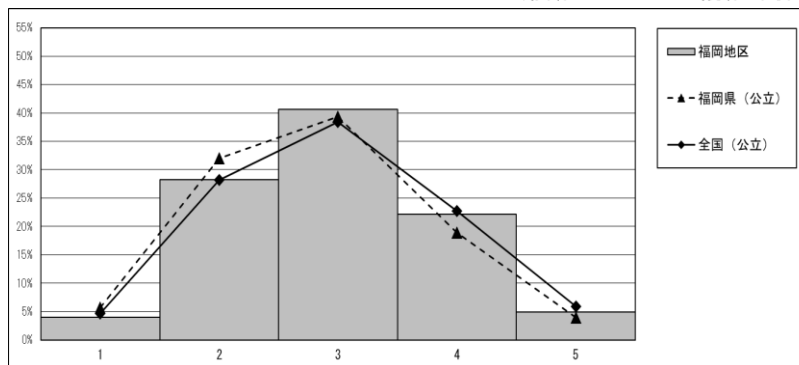
ア 6地区及び指定都市の標準化得点（中学校英語（3技能）の状況はイを参照）

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
福岡県（指定都市を含む。）	101.3	100.0	99.0	97.8
福岡県（指定都市を除く。）	101.3	101.1	97.9	96.7
福岡地区	105.1	103.3	103.1	105.5
北九州地区	100.0	97.8	94.8	90.1
北筑後地区	102.5	102.2	95.8	93.4
南筑後地区	100.0	98.9	94.8	92.3
筑豊地区	93.7	95.6	89.6	79.1
京築地区	100.0	95.6	91.7	85.7
指定都市	100.0	97.8	100.0	100.0
全国	100.0	100.0	100.0	100.0

イ 6地区及び指定都市の中学校英語（3技能）の状況（IRTバンド分布）

<福岡地区>

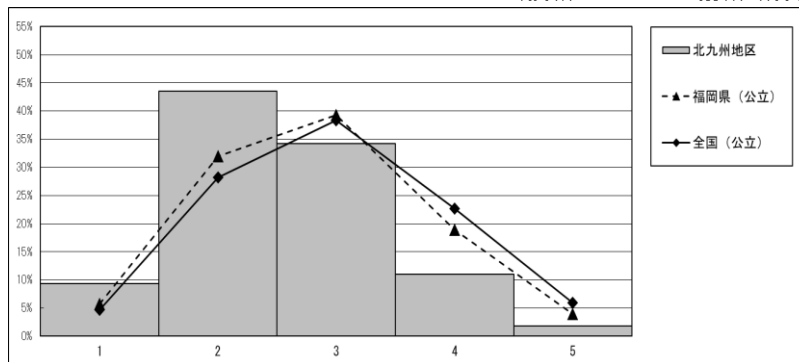
（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）



IRT バンド	割合 (%)		
	福岡地区	福岡県 (公立)	全国 (公立)
5	4.9	4.0	5.9
4	22.2	18.9	22.7
3	40.6	39.3	38.4
2	28.2	32.0	28.2
1	4.0	5.7	4.7

<北九州地区>

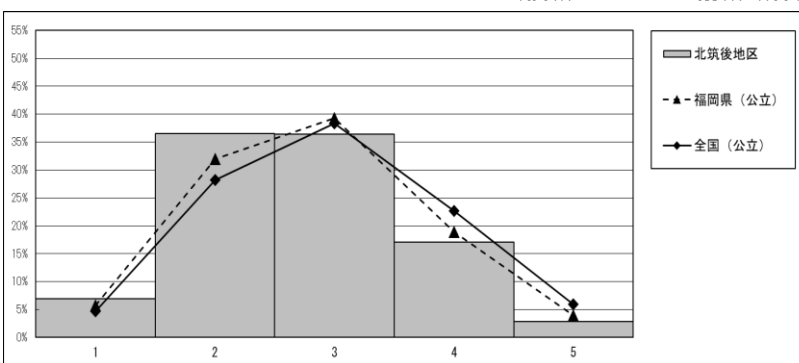
（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）



IRT バンド	割合 (%)		
	北九州地区	福岡県 (公立)	全国 (公立)
5	1.9	4.0	5.9
4	11.0	18.9	22.7
3	34.2	39.3	38.4
2	43.5	32.0	28.2
1	9.4	5.7	4.7

<北筑後地区>

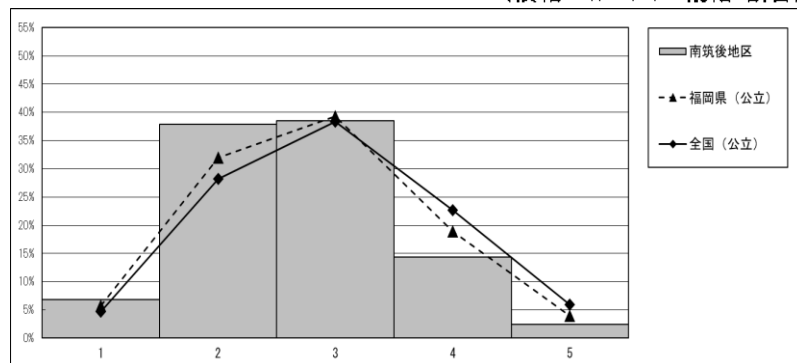
（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）



IRT バンド	割合 (%)		
	北筑後地区	福岡県 (公立)	全国 (公立)
5	2.9	4.0	5.9
4	17.1	18.9	22.7
3	36.5	39.3	38.4
2	36.6	32.0	28.2
1	7.0	5.7	4.7

<南筑後地区>

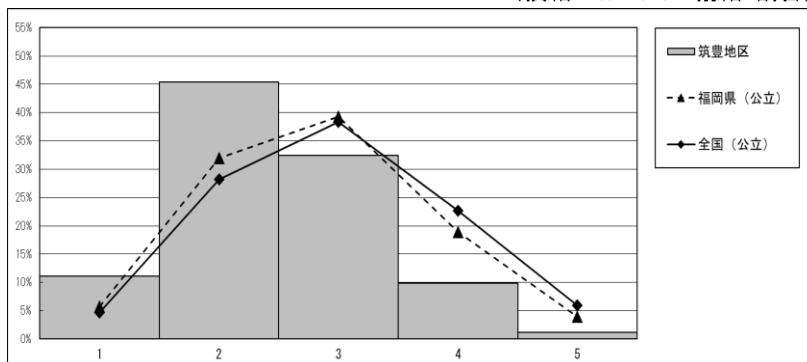
(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



IRTバンド	割合(%)		
	南筑後地区	福岡県(公立)	全国(公立)
5	2.4	4.0	5.9
4	14.3	18.9	22.7
3	38.5	39.3	38.4
2	37.9	32.0	28.2
1	6.8	5.7	4.7

<筑豊地区>

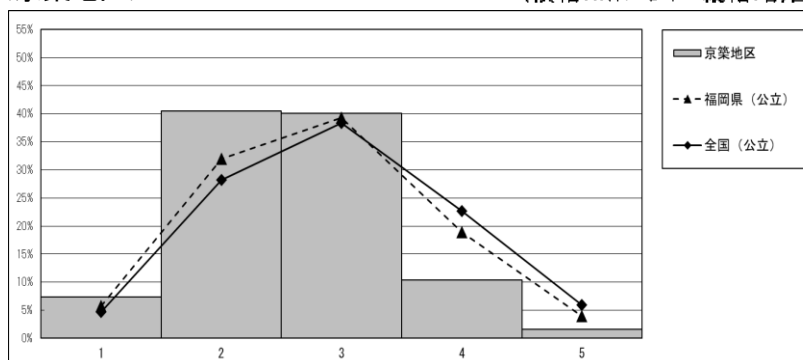
(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



IRTバンド	割合(%)		
	筑豊地区	福岡県(公立)	全国(公立)
5	1.2	4.0	5.9
4	9.9	18.9	22.7
3	32.4	39.3	38.4
2	45.4	32.0	28.2
1	11.1	5.7	4.7

<京築地区>

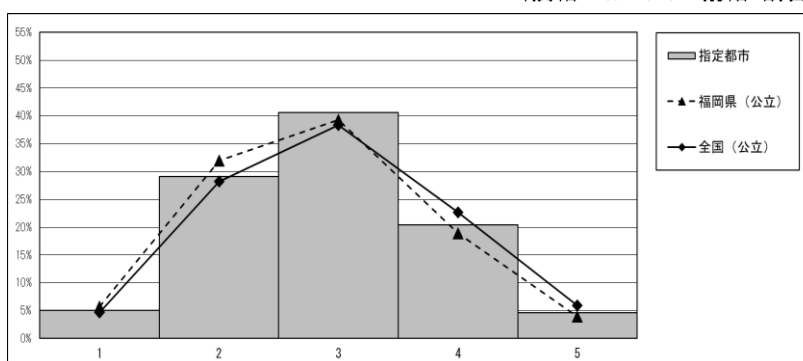
(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



IRTバンド	割合(%)		
	京築地区	福岡県(公立)	全国(公立)
5	1.6	4.0	5.9
4	10.4	18.9	22.7
3	40.1	39.3	38.4
2	40.5	32.0	28.2
1	7.4	5.7	4.7

<指定都市>

(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



IRTバンド	割合(%)		
	指定都市	福岡県(公立)	全国(公立)
5	4.7	4.0	5.9
4	20.5	18.9	22.7
3	40.7	39.3	38.4
2	29.1	32.0	28.2
1	5.1	5.7	4.7

- 7つの地区（福岡地区、北九州地区、北筑後地区、南筑後地区、筑豊地区、京築地区、指定都市）のうち、標準化得点が全国平均以上の地区は、小学校が国語6地区、算数2地区、中学校が国語2地区、数学2地区であった。
- 中学校英語（3技能）において、IRTバンド3以上の生徒の割合が全国以上の地区は1地区であった。

(2) 質問調査の結果

上段に福岡県の割合、下段に全国の割合を示している。

選択肢の1、2の枠を太線（赤）で囲んでいる項目は、肯定的回答が8割を超えているまたは全国平均と比べて県平均が上回っている項目である。太点線（青）で囲んでいる項目は、肯定的回答が全国平均と比べて県平均が5%以上下回っている項目である。

＜児童生徒質問調査＞（学びに向かう力、人間性等）①、②、③、④の項目名は、県独自に分類し、付したものである。

① 学びを調整する力

番号	質問事項	※選択肢				
		1	2	3	4	5
★小22	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	26.7	50.5	18.8	3.0	
		28.7	50.7	17.1	2.7	
★中22		27.0	49.7	19.7	2.9	
		27.4	50.8	18.6	2.7	
◆小38	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	22.5	36.3	26.8	11.9	1.9
		25.8	40.6	23.4	8.0	1.7
◆中38		18.4	36.5	27.9	14.1	2.7
		22.6	42.9	22.9	8.8	2.4
小39	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	26.3	49.1	19.4	3.2	
		28.3	49.3	17.4	2.8	
中39		26.1	51.2	19.0	2.9	
		27.0	51.8	17.4	2.9	
小40	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	24.4	46.0	21.0	3.9	
		26.9	46.5	19.1	3.5	
中40		22.3	47.1	22.0	4.4	
		23.1	47.7	21.6	4.4	
☆小42	学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	40.9	43.5	11.5	2.6	0.8
		43.5	42.2	10.6	2.4	0.7
☆中42		39.2	47.6	9.3	2.2	1.1
		39.6	47.4	9.1	2.3	1.1
小43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	29.6	47.8	18.0	3.5	
		31.4	47.0	17.2	3.4	
中43		29.5	50.1	16.8	2.9	
		29.3	49.7	17.2	3.2	

② 粘り強く挑む力

番号	質問事項	※選択肢			
		1	2	3	4
小10	将来の夢や目標を持っていますか	59.6	22.3	10.6	6.8
		58.6	23.2	10.8	6.8
中10		38.9	29.1	20.4	11.3
		37.4	30.2	20.5	11.5

③ 自己有用感・自己効力感

番号	質問事項	※選択肢			
		1	2	3	4
小 8	自分には、よいところがあると思いますか	41.9	42.3	10.8	4.6
		43.6	42.0	9.8	4.3
中 8		40.8	43.5	11.2	4.2
		41.0	43.0	11.3	4.5
小 9	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	52.7	38.6	6.2	2.0
		53.4	38.0	6.1	2.1
中 9		47.4	44.0	6.2	2.1
		46.7	44.2	6.4	2.3

④ 協働する力

番号	質問事項	※選択肢			
		1	2	3	4
小 1 1	人が困っているときは、進んで助けていますか	47.6	45.4	5.4	0.9
		47.3	45.4	5.6	0.9
中 1 1		41.9	49.1	7.3	1.1
		40.8	50.0	7.4	1.2
小 1 4	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	71.5	24.4	2.7	0.9
		70.8	25.0	2.9	1.0
中 1 4		72.3	24.0	2.5	0.9
		69.8	26.1	2.8	1.1
小 1 6	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	30.9	45.9	17.9	4.6
		31.9	46.0	16.9	4.3
中 1 6		32.3	45.9	17.4	3.9
		32.0	46.6	17.0	3.8
小 3 3	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	32.1	48.6	15.3	3.8
		31.9	48.2	15.9	3.9
中 3 3		23.3	50.5	20.2	5.8
		22.1	50.2	21.2	6.4

「※選択肢」について

選択肢の各番号は、次のような選択肢となっている。

1：当てはまる、2：どちらかといえば、当てはまる、3：どちらかといえば、当てはまらない、4：当てはまらない

★（小 2 2、中 2 2）は、

1：できている、2：どちらかといえば、できている、3：どちらかといえば、できていない、4：できていない

◆（小 3 8、中 3 8）は、

1：発表していた、2：どちらかといえば、発表していた、3：どちらかといえば、発表していなかった、

4：発表していなかった、5：考えを発表する機会はなかった

☆（小 4 2、中 4 2）は、

1：当てはまる、2：どちらかといえば、当てはまる、3：どちらかといえば、当てはまらない、

4：当てはまらない、5：学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を行っていない

＜学校質問調査＞

番号		質問事項	※選択肢			
			1	2	3	4
□小17	児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	42.6	55.3	2.0	0.0	
		42.5	54.8	2.5	0.0	
□中17		31.0	66.1	2.9	0.0	
		38.6	57.3	3.8	0.0	
小68		17.4	67.8	14.7	0.1	
		20.5	65.8	13.2	0.2	
中76		18.9	59.6	21.2	0.0	
		20.1	63.2	16.0	0.4	
小81	前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えることを行いましたか	50.9	47.2	1.9	0.0	
		49.4	47.2	3.2	0.1	
中89		35.4	55.8	8.6	0.3	
		33.4	57.8	8.4	0.3	
小82	前年度までに、家庭学習について、児童が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	40.0	53.8	5.9	0.3	
		39.0	52.1	8.5	0.3	
中90		28.6	57.2	13.6	0.6	
		26.8	58.2	14.4	0.4	
小83	前年度までに、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを行いましたか	30.9	61.0	8.1	0.0	
		31.4	59.1	9.3	0.2	
中91		24.8	63.1	11.8	0.0	
		22.2	61.0	16.1	0.5	

「※選択肢」について

選択肢の各番号は、次のような選択肢となっている。

1：よく行った、2：どちらかといえば、行った、3：あまり行わなかった、4：全く行わなかった

□（小17、中17）は、

1：よくしている、2：どちらかといえば、している、3：あまりしていない、4：全くしていない

<児童生徒質問調査>

①「学びを調整する力」に関わる項目

- 〔４２〕「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」については、小学校、中学校ともに肯定的な回答をした児童生徒の割合が８割を超えていた。
- 〔３８〕「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」については、小学校、中学校ともに肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均を５％以上上回った。

②「粘り強く挑む力」に関わる項目

- 〔１０〕「将来の夢や目標を持っていますか」については、小学校は肯定的な回答をした児童の割合が８割を超えており、小学校、中学校ともに肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均を上回った。

③「自己有用感・自己効力感」に関わる項目

- 〔８〕「自分には、よいところがあると思いますか」〔９〕「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」については、小学校、中学校ともに肯定的な回答をした児童生徒の割合が８割を超えていた。

④「協働する力」に関わる項目

- 〔１１〕「人が困っているときは、進んで助けていますか」〔１４〕「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」〔３３〕「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」については、小学校、中学校ともに肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均を上回っていた。

<学校質問調査>

PDCA サイクルの確立

- 〔１７〕「児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」については、肯定的な回答をした学校の割合が、小学校、中学校ともに９割を超え、全国平均を上回った。

授業での一人一台端末の活用

- 〔小６８、中７６〕「ICT機器を活用して各教科等における見方・考え方を働かせるような学習指導を行いましたか」については、肯定的な回答をした小学校の割合は８割を超えており、中学校の割合も７割を超えていた。

家庭学習

- 〔小８１～８３、中８９～９１〕家庭学習に関する取組については、いずれの項目についても肯定的な回答をした学校の割合が、小学校、中学校ともに全国平均を上回った。

(3) 本調査問題における福岡県の特徴

<記号の意味>

◇ 正答率が高い問題（2問） ○ 全国と比べて本県の成果がうかがえる問題

◆ 正答率が低い問題（2問） ● 全国と比べて本県の課題がうかがえる問題

なお、◇と○、◆と●が重複している場合は、◇または◆示す問題の「差」の値に下線を付している。

また、○および●は、全国との差、誤答の状況、無解答率等をもとに義務教育課が選定している。

小学校

<国語>

問題番号	出題の趣旨	福岡県	全国	差
1 一 選択式	◇ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかどうかをみる	75.4	73.9	<u>+1.5</u>
3 三 (2) 記述式	◇文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	77.2	76.4	+0.8
2 一 選択式	◆筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる	56.7	57.9	<u>-1.2</u>
3 三 (1) 選択式	◆目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	54.4	55.5	-1.1

<算数>

問題番号	出題の趣旨	福岡県	全国	差
3 (1) 短答式	◇小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	94.6	94.5	+0.1
4 (4) 選択式	◇帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取ることができるかどうかをみる	75.5	74.9	+0.6
1 (1) 短答式	○立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	75.3	72.7	+2.6
4 (3) 短答式	◆二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	15.0	17.9	<u>-2.9</u>
2 (4) 選択式	◆基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる	32.0	34.2	-2.2

中学校

＜国語＞

問題番号	出題の趣旨	福岡県	全国	差
3 二 短答式	◇表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる	92.6	92.3	+0.3
1 三 選択式	◇単語の活用について理解しているかどうかをみる	83.9	85.4	-1.5
2 四 記述式	○互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる	53.3	52.7	+0.6
4 二 短答式	◆語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる	35.5	35.2	+0.3
4 四 記述式	◆文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる	39.3	38.9	+0.4
4 三 選択式	●目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるかどうかをみる	66.7	68.7	-2.0

＜数学＞

問題番号	出題の趣旨	福岡県	全国	差
1 短答式	◇具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができるかどうかをみる	84.5	85.7	-1.2
9 (2) 選択式	◇箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうかをみる	75.2	75.8	-0.6
4 短答式	○反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、 x の値に対応する y の値を求めることができるかどうかをみる	56.8	55.3	+1.5
7 (2) 記述式	◆数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	32.4	33.9	-1.5
9 (3) 記述式	◆データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる	32.9	31.9	+1.0
9 (1) 短答式	●累積度数の意味を理解しているかどうかをみる	42.4	46.0	-3.6

＜英語＞

問題番号	出題の趣旨	福岡県	全国	差
2 選択式	◇日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	76.8	78.5	-1.7
3 選択式	◇日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	72.7	76.0	-3.3
1 4 記述式	◆日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	22.5	27.8	<u>-5.3</u>
1 0 (2) 記述式	◆社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	24.5	27.8	-3.3

■ 8 今後の予定

詳細な分析を基に報告書を作成し、市町村教育委員会及び全小・中学校へ配布し、併せて、県教育委員会のホームページに掲載する。